

このまちに
笑顔と健康を届ける



1 出雲市斐川町にある山陰ヤクルト販売本社。山陰に営業拠点が29拠点あり、各地で販売活動や健康教室事業を展開している 2 「他人を思いやる、利他の心がある人にびったりな会社」と話す山本祥二社長 3 各事業のサポート部門として、従事者の労働環境整備や生産性向上を図っている総務部 4 健康教室事業に向け、準備をする広報部社員ら 5 ヤクルト球団のマスコットキャラクターがプリントされたポロシャツ姿で、担当エリアを走り回る流通サービス部の社員 6 地域貢献の一環として、健康情報を地域の住民や子どもたちに伝える事業にも注力 7 従業員の健康管理も重視しており、「健康経営優良法人2024認定」も取得している 8 大ヒット中の《ヤクルト1000》を始め、乳酸菌飲料を中心に多くのラインナップがあるヤクルト商品



者の想いが原点にある。
商品だけでなく、心や健康を地域に届ける山陰ヤクルト販売。山本社長は、「理想は、『人とつながり、まちを元気にする』コミュニケーションのような存在。地域の健康で幸せな暮らしを支え続けたい」と熱く語る。

腸の健康の大切さを知ってもらおうと、20年以上前から熱心に行っているのが健康教室事業だ。地域貢献の一環として、広報部に所属する管理栄養士や栄養士が地域の保育園や小学校、企業や福祉施設などに出向き、お腹の健康や腸内細菌、健康のための正しい生活習慣などについての無料出前講座を実施。年代やニーズに合わせた分かりやすい内容とあって高い人気を誇っている。健康経営に関心を持つ企業が増える中、近年は需要に追い付かないほどで、新たに健康情報動画の提供も始めた。そこには、「一人でも多くの人に健康になってほしい」という創始者の想いが原点にある。

たりしている。まさに心と体の健康アドバイザーなのだ。そのため、接遇に関する教育や自社商品のエビデンスについての社内研修に注力。23年には社員やヤクルトスタッフの育成やサポートを体系的に行う人材開発部を新設し、今まで以上に体制を強化した。

主な業務内容は、ヤクルト商品を家庭や事業所、各種施設などに定期的に届けること。しかし、ヤクルトスタッフはただ商品を届けるのではなく、基本的にお客様の顔を見て商品を手渡しし、体調を伺う中でニーズに合った商品を提案したり、健康情報を伝えたり、アドバイスを

1935年に福岡県で製造・販売がスタートした《ヤクルト》は戦後、販売会社が全国に拡大。山陰でも創始者の想いに共鳴した人が数多く存在し、各地で宅配サービスが展開されていったが、2014年に29拠点を束ねる現在の形に統合された。

小さなプラスチック容器に入った、どこか懐かしく甘酸っぱい乳酸菌飲料《ヤクルト》。抜群の知名度の割には、商品に込められた想いや機能は知られていないのではないだろうか。《山陰ヤクルト販売株式会社》の山本祥二社長(63)は、「ヤクルトの原点は、予防医学と健腸長寿、そして誰もが手に入れられる価格で提供するということ。腸内で有益な働きをする『乳酸菌 シロタ株』の力で腸を元気にし、病気を予防してほしいという創始者の想いがあるのです」と紹介する。

人と人、心と心をつなげる
宅配サービスにこだわる

人も地球も健康に Yakult

山陰ヤクルト販売 株式会社

事業内容

乳製品乳酸菌飲料・清涼飲料・化粧品のお届け、健康教室の開催 など

創業 昭和41(1966)年3月4日

代表者 代表取締役社長 山本 祥二

社員数 121名(男40名 女81名)

本社 島根県出雲市斐川町荘原3946

電話 0853-73-8960

採用エリア(勤務地)

出雲市、浜田市、米子市

採用区分

新卒採用

キャリア採用

採用担当者からあなたへ

私たちは、地域の皆さまに「一人でも多くの人に健康になっていただきたい」という理念のもと、お客さまとのあたたかいふれあいを通じて、健康のお役立ちを行っています。自分の損得だけでなく、相手の気持ちを考えて行動できる方をお待ちしております。



人材開発部 人事課
持田 憲大さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0853-73-8960

採用直通 E-mail

n_mochida@sanin-yakult.co.jp

公式サイトはこちら



Instagramはこちら



山陰ヤクルト販売のあれこれQ&A

Q. 研修制度や資格取得支援について教えてください。

A. 入社後は、ヤクルトの歴史や経営理念、健康知識、接客スキルなどを学びます。その後は実践を通じて業務を習得する傍ら、役職や階層に応じた研修を本社が提供するメニューや外部講師を招いて行い、スキルアップを図っています。

健康管理能力検定3級は、会社が費用を全額負担して全社員に取得してもらいます。その他、セールススキル検定や販売士、簿記など、業務に関連する公的資格に合格した人には、奨励金を出しています。



社員は研修や資格取得などを通じて、幅広く健康知識などを習得し、業務に生かしている



地域貢献の一環として、卓球部の社員らが島根県内の高校・大学に向き、現役選手の指導を行っている



ディオッサ出雲の選手2人を社員として雇用。スポーツ活動に加え、生活基盤確立をサポートしている

Q. どんな仕事がありますか？

A. 社内には、商品をお客様のもとにお届けするヤクルトスタッフの育成や業務サポートを行う《宅配サービス部》、スーパーや事業所、施設などに商品や健康情報を届ける《流通サービス部》、健康教室の開催やさまざまな広報媒体を活用して社内外へ情報を発信する《広報部》のほか、《総務部》、《人材開発部》があります。



さまざまな業務を通して、地域住民の健康で幸せな生活づくりに貢献しているヤクルト社員

Q. 社会貢献に力を入れていると聞きました。

A. 女子サッカーチーム《ディオッサ出雲FC》の選手2人を社員として、フットサルクラブ《ボルセイド浜田》の選手2人をヤクルトスタッフとして雇用しています。練習時間の確保に配慮しつつ働いてもらうことで、選手のスポーツ活動と生活基盤確立の両方をサポートしています。また、スポンサーとしても、チームの活動を支援しています。

社内には、元全国トップレベルの卓球選手や愛好者が多数いることから卓球部があり、社会貢献の一環として、県内の高校や大学の卓球部に訪問指導する活動を行っています。

お客様に寄り添う健康アドバイザーへ。育てたスタッフの成長がやりがい

子育てが一段落し、改めて今後の自分の人生を考えた時に思い出したのが、若い頃に携わっていた化粧品メーカーのインストラクターという仕事だった。「現場のOJT指導を通じて、スタッフを育成・マネジメントするのが楽しかったんです。ヤクルトにスタッフをサポートする仕事があるって知って興味を持つようになった上、化粧品も扱っている点にも惹かれました」と林さん。実家では宅配サービスを利用して、「ヤクルトスタッフ」も身近な存在だった。

新人スタッフに同行し、顧客への対応をレクチャーするほか、既存スタッフの売り上げ

管理やモチベーション向上などマネジメントを担当。「家事や育児の合間に働き始めたスタッフが次第に仕事に積極的になり、楽しく目標を持って動くようになっていく姿を見るのが一番のやりがいですね」

ネット通販全盛の時代、定期的に同じスタッフが訪問し、手渡しで商品を届けるスタイルは珍しくなった。「一人暮らしのお客様の場合、ヤクルトスタッフのご家族よりも多い頻度で会うことも。お客様に寄り添う健康アドバイザーとしての意識も育てています」。強みを生かしつつ、新たなニーズも探っている。



宅配サービス部
林 比沙子さん(46)
2022年入社

自社開発の健康飲料を自信を持って提案。熱中症対策にも注力

自動販売機の補充やメンテナンス、量販店や病院、施設などへ商品を定期的に届けるルート業務を担当。2トントラックを自ら運転し、出雲・雲南地域を駆け巡る。「乳製品なので品質保持には一層気を遣います。一方、売り上げを管理しつつ、自販機の商品ラインナップを考えたりするのは面白いです」と笑顔を見せる。

猛暑が続く近年強化しているのが、熱中症対策として、事業提携するキリングループの各種飲料を顧客の工場や建築現場などに届けるサービスだ。高温多湿な作業環境では熱中症リスクがひととき高く、水分補

給は不可欠。「おかげさまで6～9月頃の暑い時期は、需要が高く、大忙しです」

配送業務が一段落する秋以降は、担当地域を中心に企業を回り、新規取引などの営業活動にも注力する。「例えば《Y1000》という商品は、一時的な精神的ストレスがかかる状況でのストレス緩和や睡眠の質向上の機能があります。私も飲みましたが、特に睡眠効果を実感。営業自身が商品の良さを分かっていると、相手の心に響きませぬよ」と寺本さん。今後は、自社やキリン商品の知識をもっと深め、顧客ニーズに応じた提案に力を入れる考えだ。



流通サービス部
寺本 昇平さん(31)
2018年入社

地域住民に健康情報を伝える“話す栄養士”。SNSでも積極的に発信

給食調理員にあこがれて栄養士の勉強をしていた安食さん。在籍していた短大のカリキュラムの一環で、ヤクルト社員の講義を聞き、「話す栄養士」という仕事に惹かれた。「もともと人と話をするのは好きだったので。栄養士は、料理やレシピを作ることに加え、栄養について人に直接伝えることもすると知って、進路を変えました」。山陰ヤクルト本社には現在3人の栄養士と1人の管理栄養士が所属する。

月に約15回は地域のサロンや企業、病院などで健康教室を開いたり、保育所や幼稚園、教育施設で出前授業を行ったりしてい

る。腸の健康の重要性を伝えることが目的で、「大切な地域貢献活動です」と安食さん。「質問を受けることも多く、日々研さんが必要ですが、それがやりがいにもつながっています」と続ける。

季節の健康情報や「健腸」レシピなどを紹介する健康情報紙の作成、Instagramでの情報発信も担当。SNSでは3つのアカウントを使い分け、商品紹介などに加え、採用につながる情報発信にも積極的だ。今の課題は、山陰東西に広がる社員間のコミュニケーション強化。「皆で力を合わせて地域に健康を届けたい」



広報部
安食 朱理さん(26)
2019年入社